

全国大学入学者選抜研究連絡協議会第1回大会 公開討論会（平成18年6月1日）
全体テーマ「多様化する高校と新教育課程下での大学入試」

「多様化する選抜方法―茨城大学理学部の改組を例として―」茨城大学理学部 学部長補佐 折山 剛

1. 理学部改革の歴史

昭和42年 6月 文理学部を改組して理学部（数学科、物理学科、化学科、生物学科）

昭和53年 4月 理学部5学科（数学科、物理学科、化学科、生物学科、地球科学科）

平成 7年 4月 理学部3学科（数理科学科、自然機能科学科、地球生命環境科学科）

平成17年 4月 理学部理学科6コース

（数学・情報数理、物理学、化学、生物科学、地球環境科学、学際理学コース）

2. 新生理学部

明確な教育目標を持ったコースを設け、入学から卒業まで一貫したカリキュラムによる教育

- ・「理学スペシャリスト」を育成
- ・「個性を活かすきめ細かい教育」、「質の高い教育」、「生きる力となる教育」
- ・「高校教員との懇談会」「入試説明会」「新入生保護者会」を開催

3. 理学部入学者選抜方法検討委員会（平成16年7月～平成17年5月）の設置

まず初めに、各コースの明確なアドミッションポリシーを構築し、それに合致した透明性、公平性、明解性を有した選抜方法を導入するという全体的な基本方針を確認した。理学部理学科1学科なので、6コース全体として推薦、前期日程、後期日程毎に、できるだけ統一性のある明解な選抜方法とすることをめざした。－1学科としてまとまりがあり、すっきりとわかりやすく－

4. 平成19年度選抜方法（18年度も2年前予告を考慮して準拠）

＜前期日程＞

センター試験5教科7科目（理科は理科総合でもOK）、個別学力検査1科目（物理学コースは2科目）で、かつ個別の配点ウェイトが大きい（500/1400, 300/1200）

＜後期日程＞

センター試験3教科3科目、個別学力検査1科目（物理学コースは2科目）か小論文で、かつ個別の配点ウェイトが大きい（600/1200, 300/900）

5. 18年度入試の解析

後期日程は、前期日程と全く異なる受験者層 → 高い受験率 → 後期日程合格者に前期日程の敗者復活はほとんどいなかった → 多様な選抜方法とは、異なる受験者層を取り込む選抜方法

6. 今後の検討課題

- ・入学後の追跡調査
- ・高大連携の実質化
- ・接続教育（未履修対策、推薦合格者の入学前教育等）の重視
- ・AO入試の導入検討
- ・作題の重要性